

学校紹介

市内にある17の小中学校。他の学校はどのようなPTA活動をしているのでしょうか？今回は4つの小中学校のPTA会長に各校の特色を伺いました。

三郷小学校 *Misato elementary school*

三郷小学校は、児童数928名(令和3年1月現在)県下最多の大規模校です。今年度の児童会スローガン「HAPPY みんな仲よし 三郷っ子」のとおり、いつも明るく、笑顔があふれています。

PTAや地域が子どもたちを支える活動は三郷小学校の特徴です。5年生の「アイガモ農法米作り」(写真)では、地域のボランティアサークルとPTAサークルが一緒になり、アイガモ農法で米作りを行います。また米の収穫に合わせてアイガモも食することで「命の学習」につなげています。他に、地域リンゴ園での3年生「リンゴ栽培体験学習」等もあり、PTAをはじめ地域とつながった活動を行っています。



穂高北小学校 *Hotaka north elementary school*

穂高北小学校は、雄大な有明山を間近に仰ぐ美しい自然の中、子どもたちが毎日元気に遊ぶ「エネルギーと笑顔」に満ちた学校です。本年度は感染症対策のため、運動会を学年ごとに行ったり5年生のキャンプをクラスごとに行う等、工夫して活動してきました。10月に開催された「学年運動発表会」は、玉入れ・ダンス・集団ゲーム・組体操等、いつも以上に学年の特性を發揮する内容となりました。競技だけでなく進行にも積極的に関わった子どもたちと、活躍する姿をすぐ近くで温かく応援してくれた保護者の皆さんのおかげで、充実した運動会を行うことができました。今後も、子ども・家庭・学校がいっしょになって様々なことに取り組んでいきたいと思えます。



豊科北小学校 *Toyoshina north elementary school*

豊科北小にある噴水とせせらぎは、ここ数年枯れた状態でしたが、地下水をくみ上げるポンプを修理して再び水を流すことにより、以前の姿を取りもどしました。水路を整備してハイケボタルの卵とさなぎを入れ、繁殖を試みたり、ワサビを植えたりするなど、環境学習の場として活用されるようになり、地域の方々にもその活動が知られるようになっていきます。

本年度はコロナのため、PTA総会やPTAバザー、秋のイベント等、例年行ってきた行事を、中止せざるを得ない中、PTAとして、今できることをやろうという考えで活動してまいりました。臨時休校明けの朝の街頭指導と帰宅時の見守り活動、自転車や歩行に関する安全喚起のプリント配布、運動の集いに向けた保護者による除草作業、運動着のリユース販売などを、各々が分担して行い、少しでも、子どもたちの笑顔につながる活動になったのではないかと考えています。



明北小学校 *Meihoku elementary school*

明北小学校は安曇野市域の北部に位置し、児童数105人で市内小中学校の中で最も規模の小さい学校です。全学年が一クラスで構成され、児童数が一桁という学年もあります。ここまで読んで、「少人数でタイヘンそう…」と思う方がいるかもしれませんが、が、実際は逆です。明北という地域は、住民の皆様と学校の結びつきが強いので、様々な場面において地域からの協力をいただき、地域全体で子どもを育てるといった理想的な環境があります。小さいからこそ、「保護者・学校・地域が協力して、子ども一人一人に手厚い見守りをできる」学校です。



そらいろのたね

安曇野市PTA会報

発行/安曇野市PTA連合会 / 発行日 2021年3月8日 / 発行人 出水 雄二 / 編集責任者 丹羽 繁
事務局 南安曇教育文化会館内 Tel.0263-72-2430 Fax 0263-72-6488

2021
Spring

今年度をふりかえって

この一年間、新型コロナウイルスという言葉を目にした日はなかったのではないのでしょうか。未だ収束へのシナリオを明確には描けず、その影響は計り知れません。それどころか、経済を含めた影響が本格的に表面化してくるのはこれからが本番、というのが正しい見方なのかもしれません。

そのような中、世界的な感染症のもとでのPTA運営元年となった今年度、役不足の私にとってはとても難しい舵取りを担う年となりました。一方、特に市PTA連合会以上に、(PTA会員の皆さんとより近い立場にある)各学校単位PTA役員の方々は、大変ご苦労されたことと推察いたします。この場をお借りし、あらためてPTA活動へのご尽力に感謝申し上げます。

さて、今年度の「運営」における「難しさ」とは、具体的にはどのようなことだったのでしょうか？それは、各種行事の「やるか」「やらないか」の判断であり、また「やる」を選んだ際の「やり方」であったと私は認識しています。今回の感染症の脅威そのものやその影響力が「明確に見えない中、行事開催による感染拡大というリスクと、各種行事の意義や効果というメリットを天秤にかけ、優先される方を選択する。これが、言葉にするほど容易ではなかったはずで。

市P連においても「やる」の決断の際は、これは勇気なのかそれとも無謀なのか？あるいは、自身やPTA組織の存在理由を示すための手段になっていないか？というもうひとりの私の声が聞こえてきました。その一方「やらない」の決断の際は、理性的判断なのかそれとも怠惰なのか？本質的に「子どもたちのため」になっているのか？という心の声も聞こえてきました。

その中、非常に残念ではありましたが、今年度の多くの市P連活動を中止とする決断をくだしてきました。それらの選択が正しかったのか、その答えはいまだに分かりませんが、その根拠は「教育」以上に重要な「健康=命」に関する問題を優先させたという事に尽きます。(直接・間接に関わらず)PTA活動が感染を媒介し、健康にマイナスの影響を及ぼしてしまうという「最悪の事態を避ける」という選択になることも、今年度においてはやむを得なかったことと考えています。

その一方、感染症の実態やその影響力が徐々に明らかになってきた「今」に対してできることがあまりに限られているのであれば「未来に対して今できること」をすることが、今年度PTA役員となった私たちの役割ではないのかと考えるに至りました。それも踏まえ、今年度の本部役員の方々の会議の一部を、オンライン会議システム(ZOOM)を使って実施するという試みにも着手し、その良さや課題について拾い出すことができました。次年度においても制限的な活動となるのが十分考えられますが、その中でも未来を見据えた発展的な要素を取り入れていき、「新しい生活様式に対応したPTA活動」を徐々に確立できなければと考えています。

最後に、誠に不十分なPTA活動ではありましたが、会員の皆様には1年間PTA活動に対するご理解とご協力をいただいたお礼を申し上げ、年度振り返りのご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。



安曇野市PTA連合会 会長
出水 雄二

編集後記

- ・本広報が今後の活動への道標の一つになれば幸いです。誰もが参加しやすい活動へ発展することを祈念します。(丹羽)
- ・他校の役員様とかかわり、一緒に活動できたことは貴重な経験でした。ありがとうございました。(編)
- ・広報委員会を通じて各校の活動やコロナ禍の対応を知る事ができました。来期に活かして行きたいと思えます。(祐津)
- ・様々な情報を共有できる有意義な場で、いろいろと参考になりました。ありがとうございました。(内川)
- ・超克(高橋)
- ・こんな時だからこそ、各校代表の広報委員による充実した意見交換が出来、自己成長できました。ありがとうございました。(寺島)
- ・広報委員を通し、各校のPTA活動の内容も共有でき、また人との繋がりもでき、良い経験となりました。(鷺澤)
- ・広報紙の活動に留まらず、各校の困り事相談も出来、有意義な活動が出来ました。ありがとうございました。(南)
- ・他校PTA会長との交流は、有意義な時間でした。ありがとうございました。(内山)

